資料1

道内の感染状況等について

【令和4年11月10日】

主な指標の状況

11／9	レベル	移行指標 病床使用率	移行指標 重症病床使用率	移行指標 10万人当たり新規感染者数	その他指標 新規感染者数今週先週比	その他指標 陽性率
全 道	2	40.5%（937床） ↗	5.6%（7床） →	888.6人/週（46063人/週） ↗	1.29 ↗	63.3% ↗
札幌市	2	44.5%（331床） ↗	4.1%（2床） ↗	879.4人/週（17243人/週） ↗	1.29 ↗	108.4% ↗
札幌市を除く地域	2	38.6%（606床） ↗	6.7%（5床） ↘	894.2人/週（28820人/週） ↗	1.29 ↗	50.6% ↗

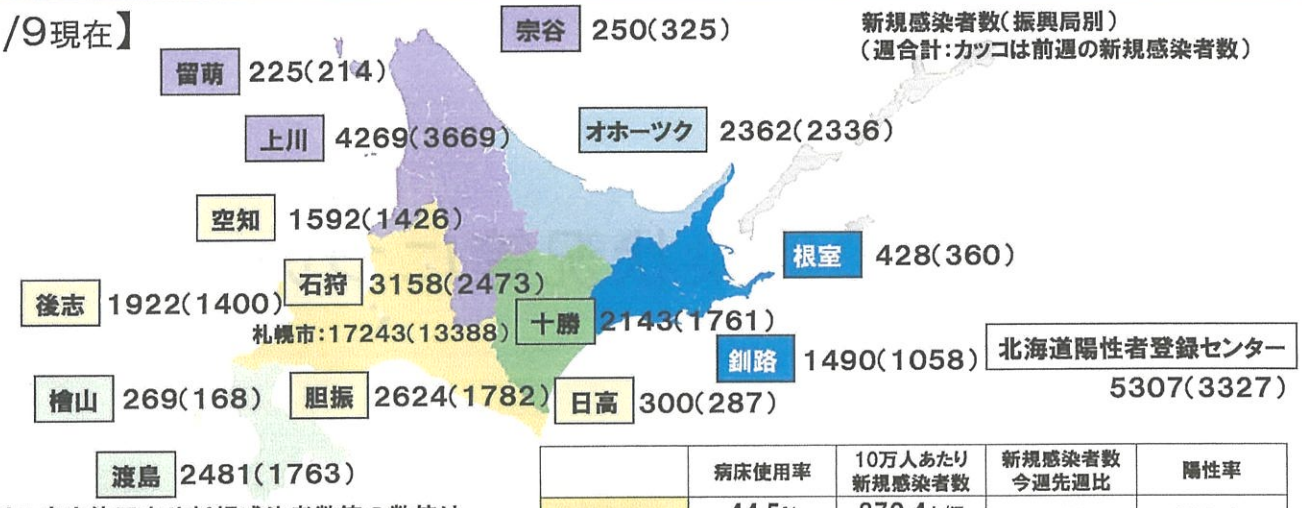
レベル２ 移行指標	20%	又は 20%	15人/週
レベル３ 移行指標	50%	又は 50%	－

※（　）は実数。 各指標の動向（矢印）は、１週間前との比較。

（注）・令和４年９月26日以降、全数届出の見直しに伴い、「療養者数」、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。
・レベル分類については、国に対し新たな考え方を示すよう求めており、示されるまでの間は、公表しなくなった指標を除いて運用する。
・全道及び札幌市を除く地域の陽性率については、高齢者施設等の従事者に対する頻回検査数を含めて算出。
・検査数に無料検査、抗原キット自己検査等を含まないため、陽性率が100%を上回る場合がある。

地域における主な指標の状況

【11/9現在】



	病床使用率	10万人あたり新規感染者数	新規感染者数今週先週比	陽性率
札幌市	44.5% (331床)	879.4人/週 (17243人/週)	1.29	108.4%
道央圏 (札幌市除く)	38.8% (193床)	717.7人/週 (9596人/週)	1.30	43.2%
道北圏	50.9% (169床)	815.8人/週 (4744人/週)	1.13	41.1%
道南圏	29.5% (72床)	668.9人/週 (2750人/週)	1.42	38.6%
十勝圏	46.8% (80床)	645.7人/週 (2143人/週)	1.22	42.2%
オホーツク圏	25.2% (33床)	876.8人/週 (2362人/週)	1.01	33.7%
釧路・根室圏	30.6% (59床)	656.9人/週 (1918人/週)	1.35	48.5%

※地域別の病床使用率や新規感染者数等の数値は、変動が大きくなる場合があることに留意。
※令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、振興局別(圏域別)の新規感染者数は届出があった医療機関の所在地別となっている。また、「療養者数」、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。
※札幌市以外の各圏域の陽性率については、高齢者施設等の従事者に対する頻回検査数を含めて算出。
※北海道陽性者登録センター分は地域別の内訳が把握できないため、陽性率の算出には含まれていない。
※検査数に無料検査、抗原キット自己検査等を含まないため、陽性率が100%を上回る場合がある。

総　評　①

【全国の状況】

○ 全国では、新規感染者数の増加傾向が続き、すべての地域で先週比が1を上回っている。国の専門家からは、今後も増加傾向が続き今夏のような感染拡大につながる可能性がある、と指摘されている。北海道は10月26日以降、10万人当たりの新規感染者数が全国最多の状況が続いている。

※参考：11月9日、新規感染者数先週比　山形1.26、東京1.50、大阪1.20、福岡1.32（北海道調べ）

【医療提供体制】

○ 病床使用率については、40．5%と、増加傾向が続いている。また、札幌市についても44．5%となっており、いずれも今夏のピークの水準に近づいている。また、道北圏や十勝圏では高い水準となっている。重症病床使用率は横ばいとなっており、5．6%となっている。

【感染状況】

○ 新規感染者数は、11月8日、9日と連続して日々の過去最多を更新しており、増加傾向が継続している。人口10万人当たりでは888．6人となっており、今夏のピークの水準に近づいている。年代別では、引き続き、30代以下の割合が約6割を占めている。これまで約2割となっていた10代の割合が減少し、その他の年代の割合が増加している。

総　評　②

【今後の対策】

○ 現在の感染の再拡大は、これまでの新たな変異株による感染拡大と異なり、今夏と同じBA.5系統であり、これまで同様に基本的な感染防止対策が有効とされていることから、道民の皆様にはマスクの適切な着用のほか、工夫した換気の実施、体調管理に十分注意するなど、今一度、基本的な感染防止行動を徹底し、対策を強化いただけるよう、呼びかける。また、オミクロン株対応ワクチンの早期接種の検討についても働きかける。

○ 誰もが感染する可能性が高まる中、セルフケアが重要となることから解熱剤や、少なくとも3日分程度の食料品、用意できる場合には検査キットについて、あらかじめ準備するよう、呼びかける。

○ 現在、札幌市を含む道央圏及び道北圏、十勝圏における即応病床はフェーズ2、その他の圏域はフェーズ1としているが、地域によっては急激な増加も見られ、全道でも入院患者数が増加していることから、今後の更なる増加を見越し、全道域で、最高フェーズの3への引上げを行う。

総　評　③

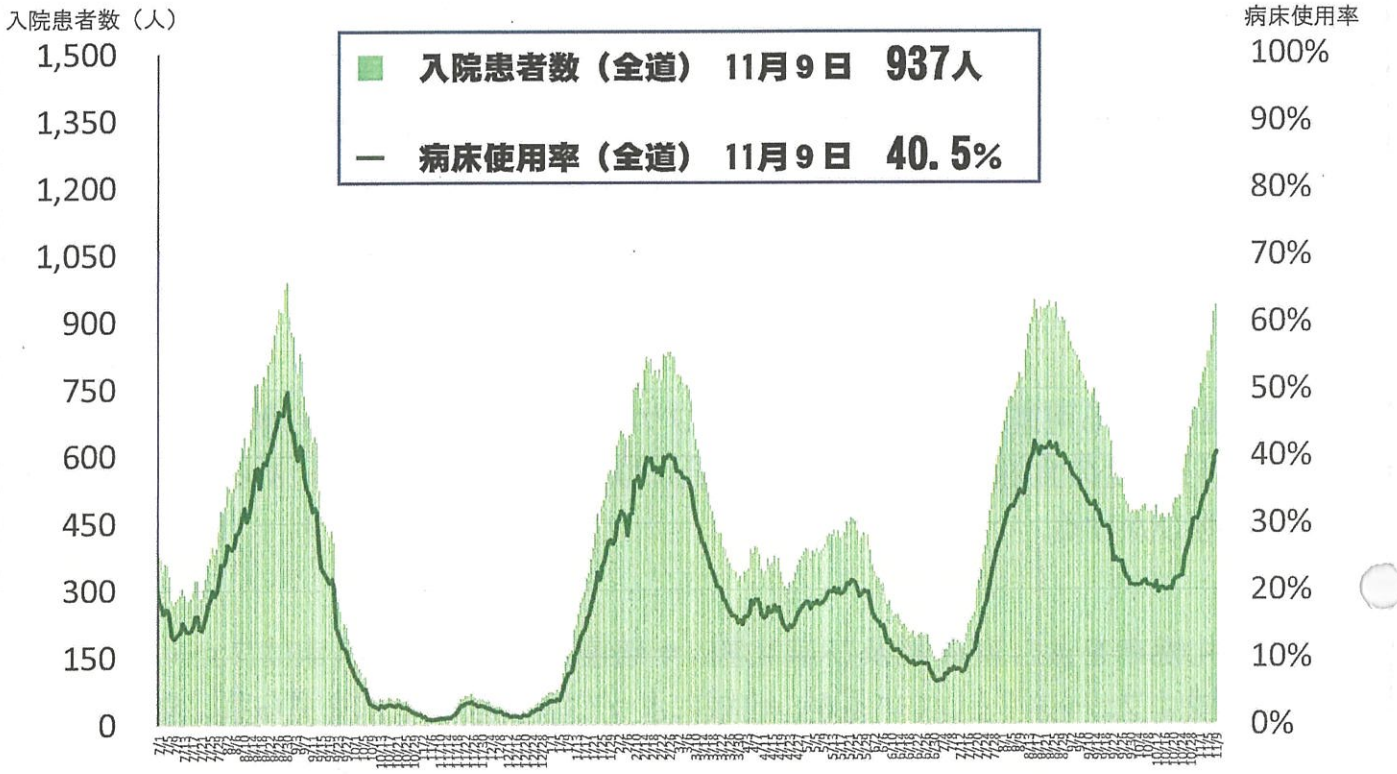
○ 地域で医療機関、高齢者施設等において集団感染が頻発しているため、日本DMATへ派遣の要請を行い、医師2名が11月9日から地域の支援などの活動に当たっていただいており、引き続き、地域の入院調整や施設の感染対策を進めていく。

○ 道内の流行株は、BA.5系統が主流となっているが、国の専門家からは、BQ.1系統やBQ.1.1系統など、今後、さらに割合が増加する可能性があり注意が必要、と指摘されており、引き続き、ゲノム解析により、道内における動向を監視していく。

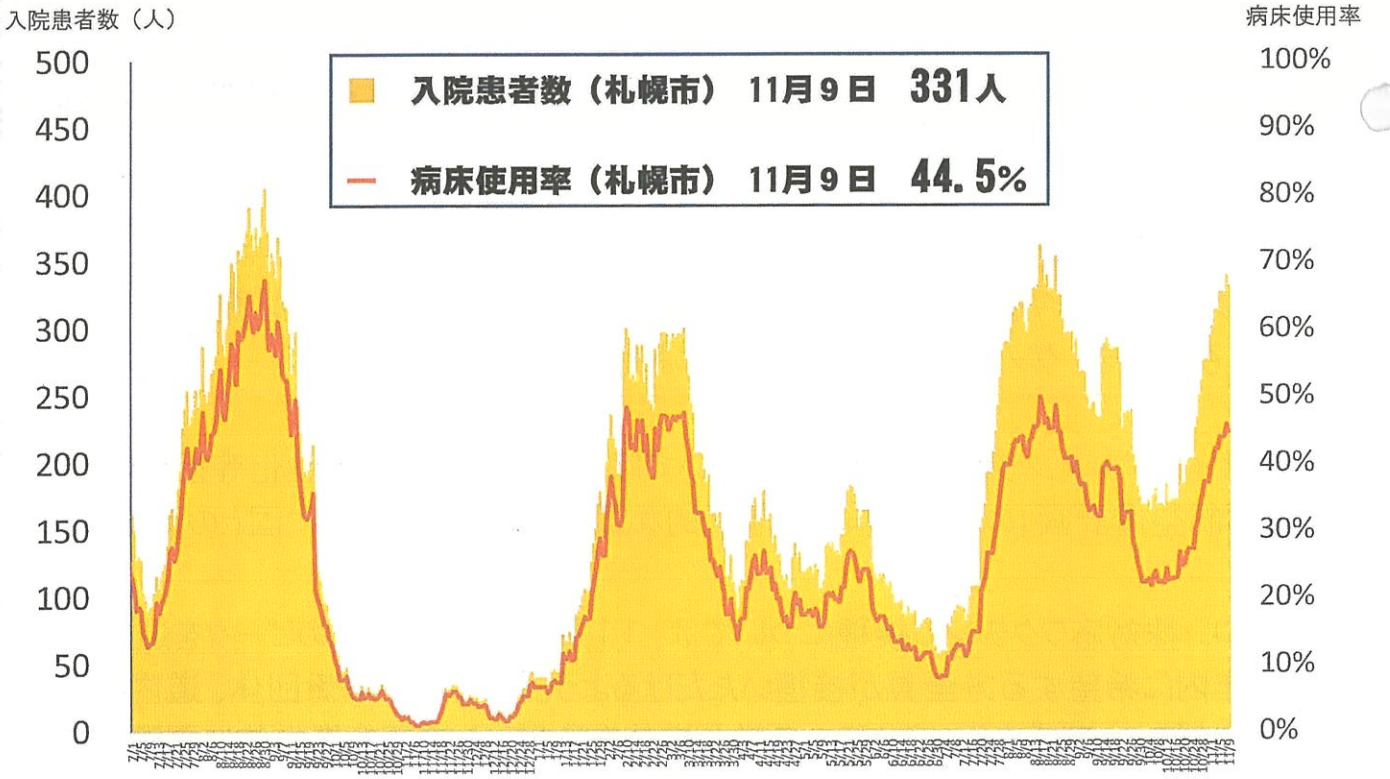
○ 季節性インフルエンザとの同時流行については、外来医療体制の強化等を図る「外来医療体制整備計画」の策定に向け、最終的な調整を進め、速やかに国との協議を行う。

○ オミクロン株対応ワクチンの接種については、11月、12月が接種のピークを迎えることから、年内に希望する方全員が接種いただけるよう、市町村や関係団体、道内の大学、専門学校等とも連携を図りながら、多様な媒体を活用した広報を集中的に展開する。

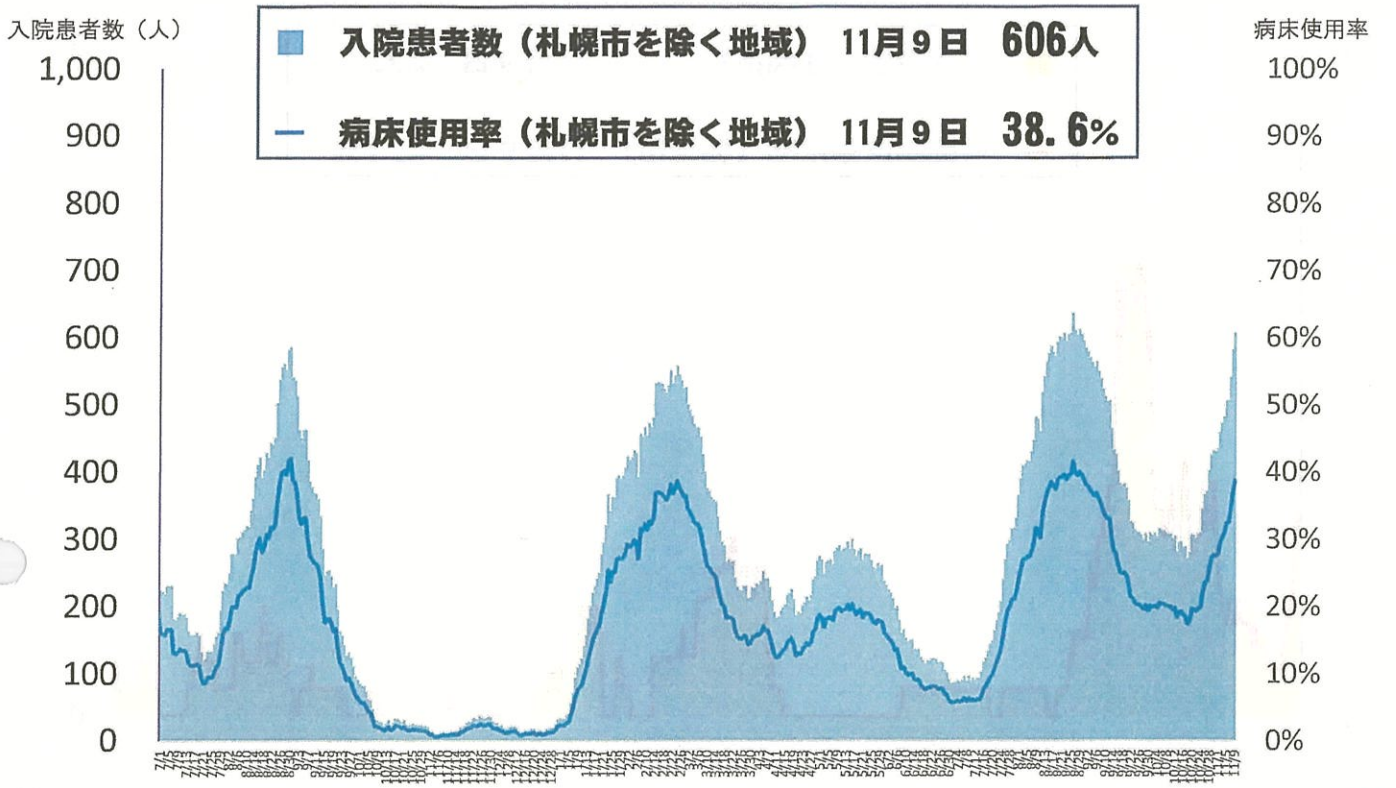
入院患者数と病床使用率（全道）



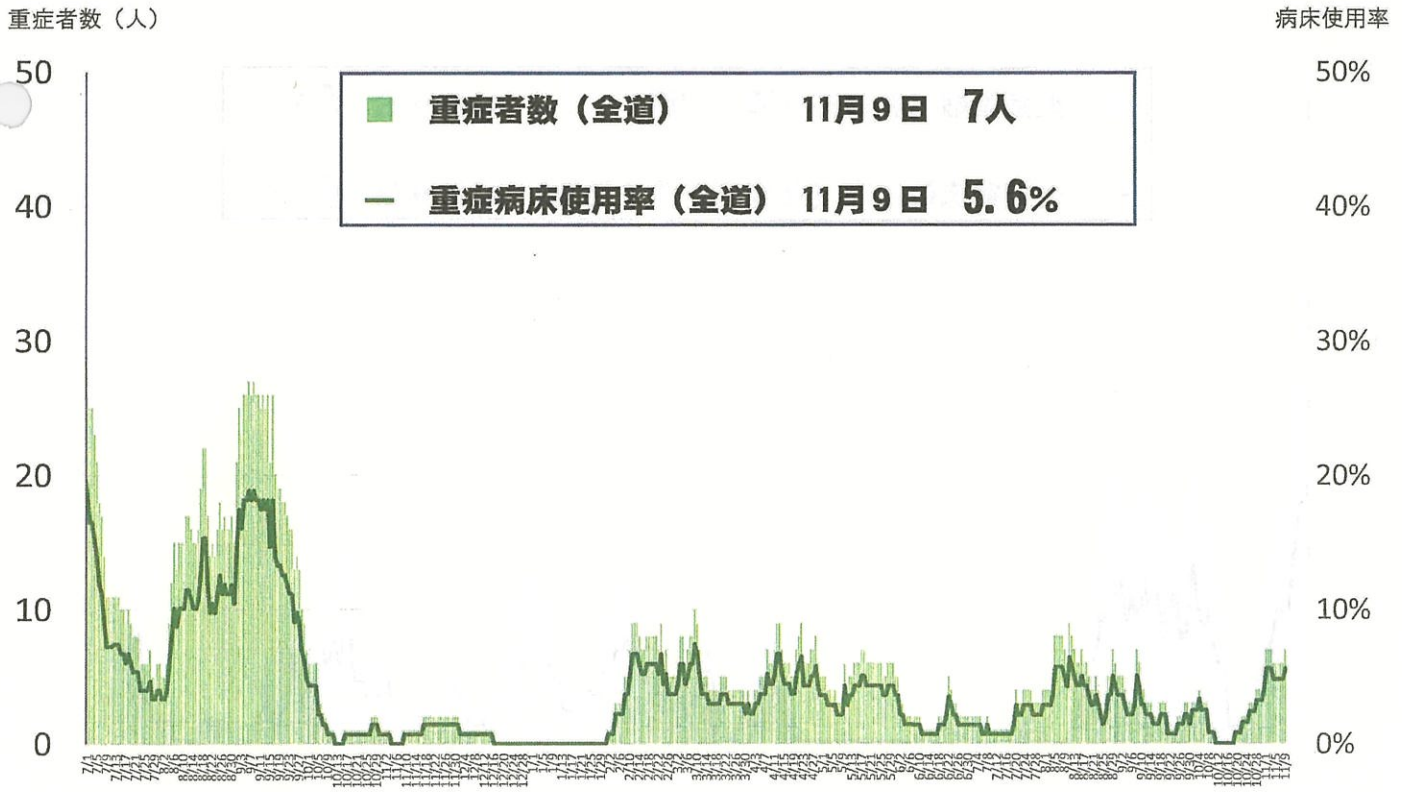
入院患者数と病床使用率（札幌市）



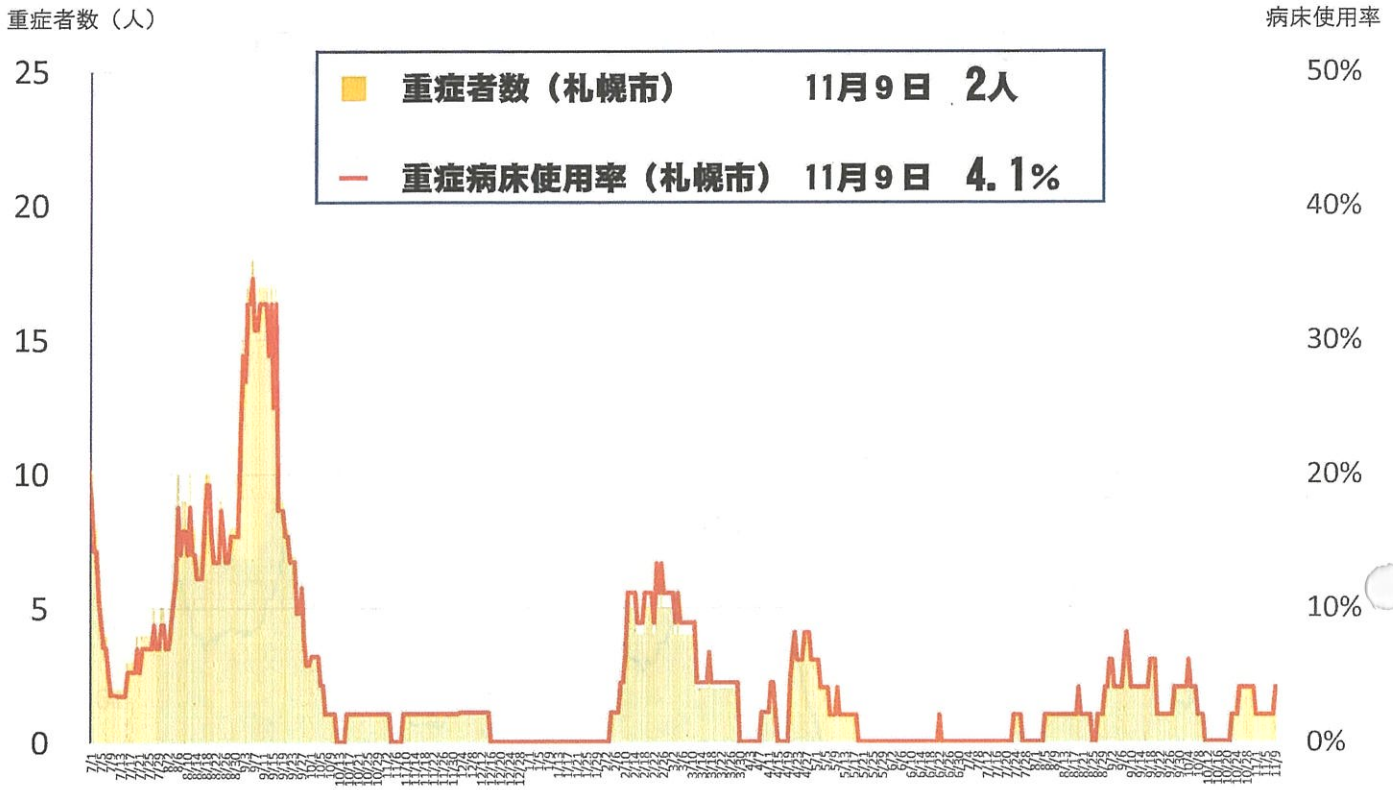
入院患者数と病床使用率（札幌市を除く地域）



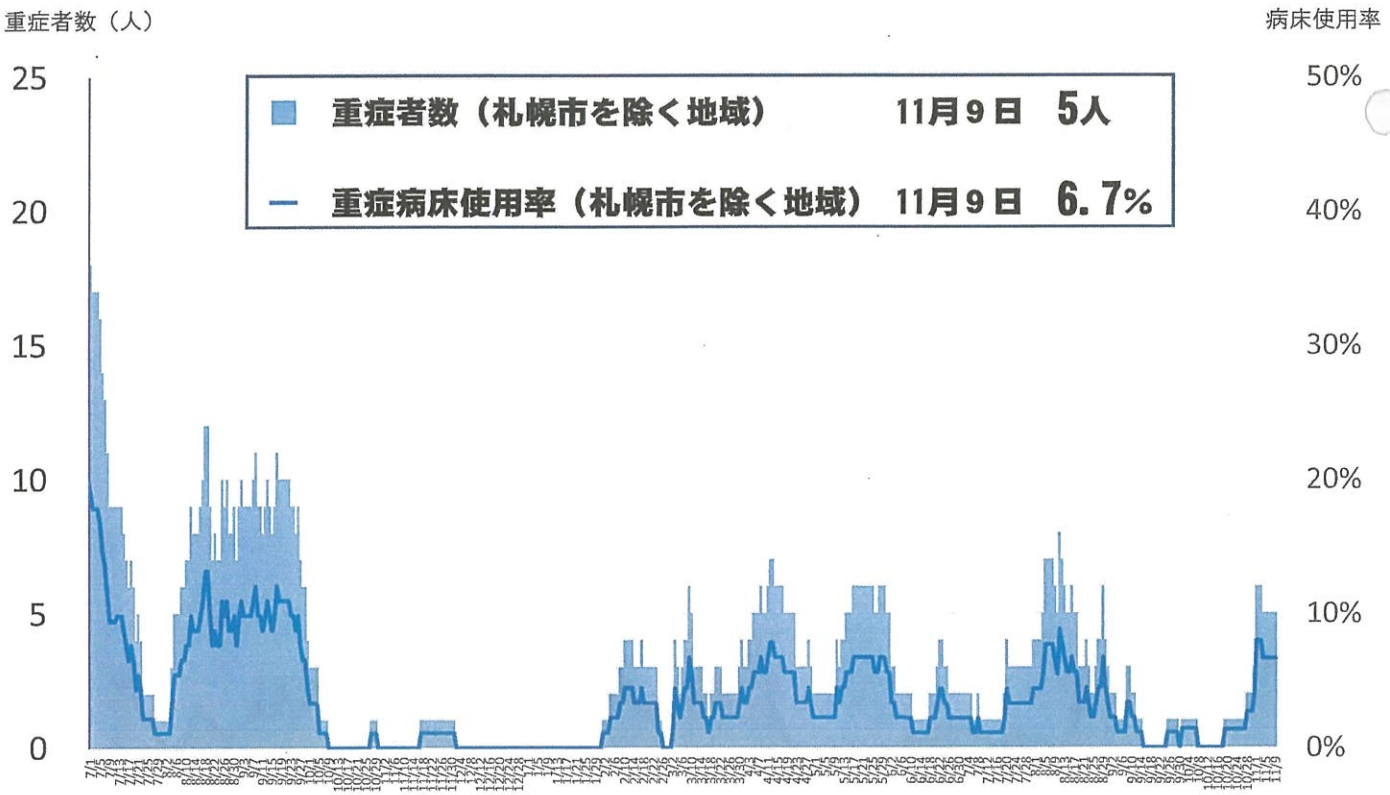
重症者数と重症病床使用率（全道）



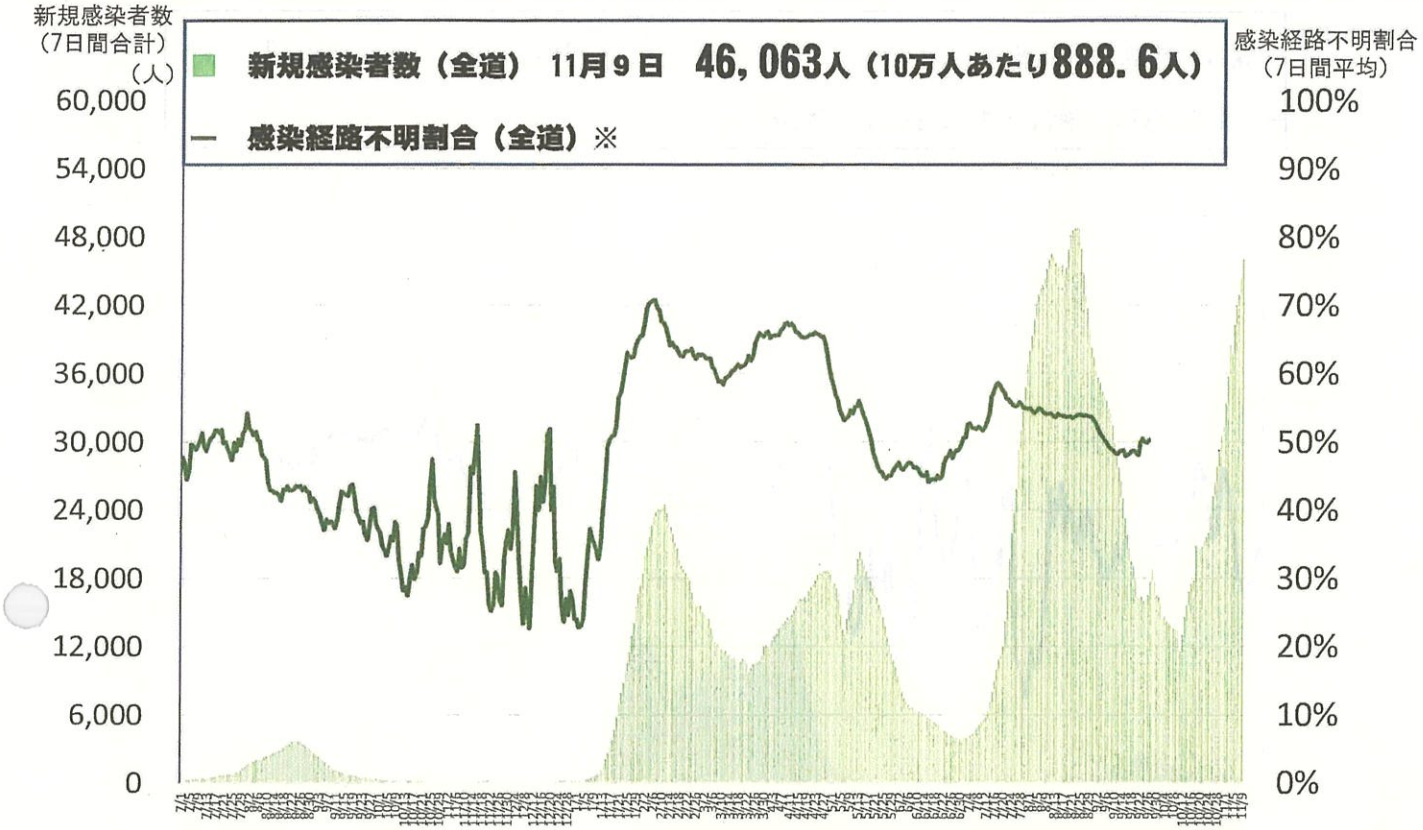
重症者数と重症病床使用率（札幌市）



重症者数と重症病床使用率（札幌市を除く地域）

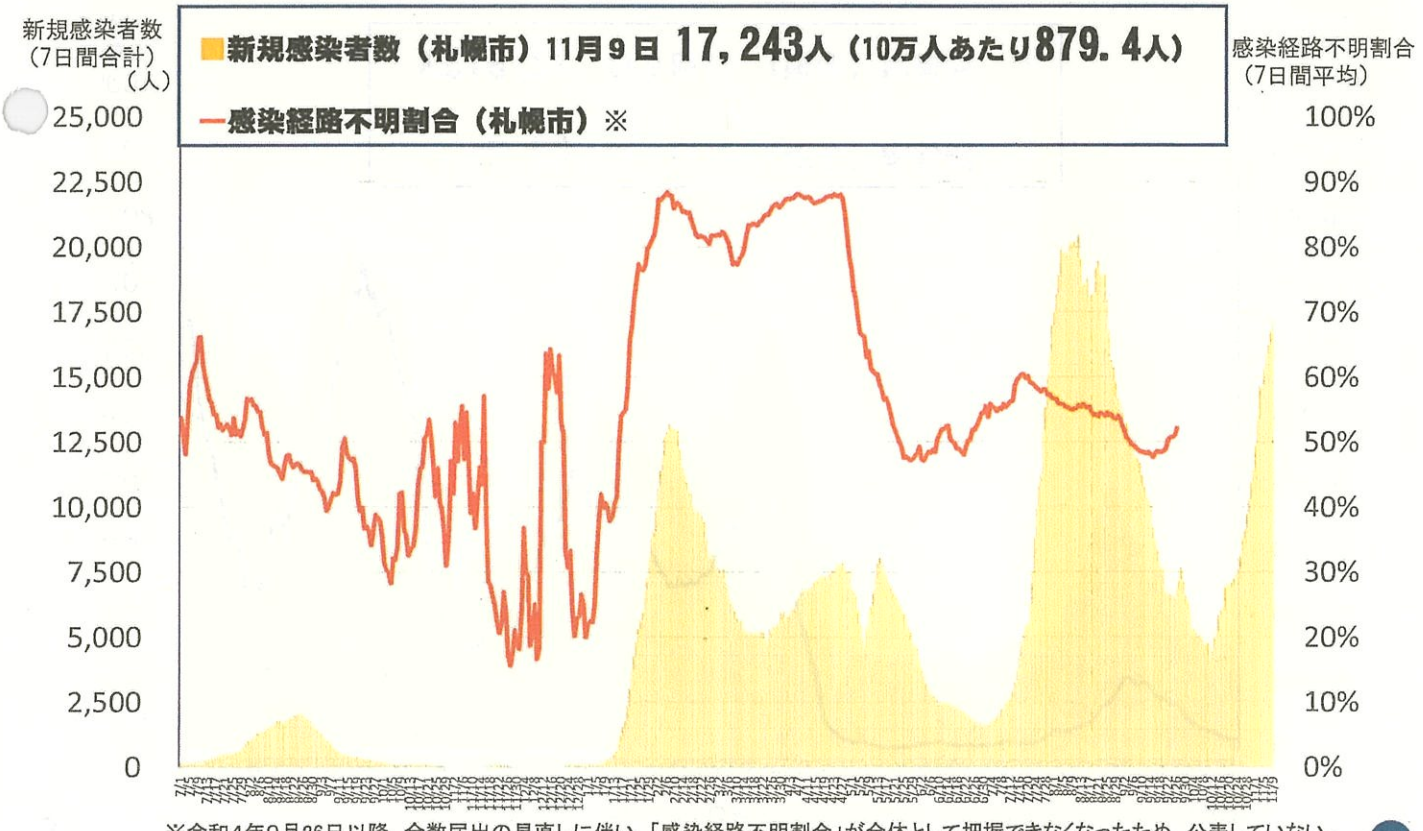


新規感染者数（全道）



※令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。

新規感染者数（札幌市）



※令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。